

㊦ユニバーサル (共生)

支える人と支えられる人という一方向の関係性を超え、双方向に支え合うこと (障壁や困難の解消 (時間・季節を問わず)、格差の是正、機会の均等、交流の促進、包摂性、心のバリアフリー、自然との共生など)

㊧ウェルネス (健康)

誰もが幸せを感じながら生活し、生涯現役として活躍できること (身体的な健康、精神的な健康、社会的な健康など)

㊨スマート (快適・先端)

新たな価値や可能性の創出に向けて、多くの人が挑戦していること (先端技術等の活用による快適性・利便性や生産性の向上、人材の育成、「スタートアップ」、「ゼロカーボン」など)

●高齢化は引き続き進行し、2040年代には高齢者人口が全体の4割になる見込みであるが、人生100年時代の到来とも言われていることから、市民や企業が健康への意識を高く持っていること㊧や、生涯学習・学び直しの機会が充実していること㊧が重要。

●また、高齢者・障がいのある人は必要な支援を受けられる㊦とともに、建築物のバリアフリー㊦や、行政手続などにおけるICT活用㊨が進んでいることが重要。

SWOT	Strengths	Weaknesses	Opportunities	Threats
S×O	・住みよさ ・都市機能の集積		・価値観やライフスタイルの多様化 ・人生100年時代の到来、ライフシフト ・デジタル技術の急激な進歩 (AI、Iot) ・国によるSociety5.0の推進、デジタル庁設置の動き	
S×O		・市民愛着度の高い市民の多さ	・価値観やライフスタイルの多様化	



■基本目標 4 誰もが健康的に暮らし、生涯活躍できるまち

※現戦略ビジョンの安全・安心分野から、健康や医療・介護・福祉を含む日常生活に関する事項として独立。生涯活躍の観点を強化。

※誰もが元気に過ごし、生涯学習や学び直しの機会の充実により、まちづくり活動や仕事など生涯にわたって活躍できる観点を強化
対応する現目標12 誰もが健康的で安心して暮らせるまち

■基本目標 5 生活しやすく住みよいまち

※医療・介護体制の整備、高齢者・障がいのある人等の支援を要する方やその家族への支援、行政サービスの利便性向上等の観点を強化。
対応する現目標12 誰もが健康的で安心して暮らせるまち、14安全な日常生活が送れるまち から生活・暮らしに関する部分を独立

■第2回審議会でもいただいたご意見

○生活・暮らしの基本目標を掲げていただいたことは非常に良い (浅香委員)

基本目標4 誰もが健康的に暮らし、生涯活躍できるまち

■目指す姿 **案**

1 市民や企業の健康への意識が高まり、健康づくりや介護予防の取組等に積極的に参加することで、誰もが生涯元気に過ごしています。

- ※「健康への意識向上」や「働く世代の健康増進」、「健康づくり、介護予防等」の観点を記載。
- ※「子どもの体力向上」は子ども・若者で整理。
- ※「ウォーカブルシティの推進」、「スポーツによる健康増進」は、それぞれ、都市空間、スポーツ・文化で整理。

2 誰もが生涯にわたって学び、また、学び直しをすることができ、その成果が、まちづくり活動や仕事に生かされています。

- ※「学びの機会の充実（身近な地域での学び、就業・社会参加への学び直し等）」の観点を記載。

■私たちが取り組むこと **案**

目指す姿	市民・企業など	行政
1 etc	<ul style="list-style-type: none"> ・健康への意識向上【新規】 ・健康づくりや介護予防等の活動推進や積極的な参加・支援 ・従業員の健康保持・増進に向けた取組の実施【新規】 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民や企業の健康への理解促進【新規】 ・健康づくりや介護予防等の取組充実や活動促進 ・働く世代の健康増進 ※健康課題のある世代への支援の観点【レベ】
2 etc	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習への関心向上と積極的な参加 ※積極的に参加する観点【レベ】 ・多様な主体による学びの機会の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な学びやスキルアップ等のための学び直しの機会の充実 ※学び直しの機会の観点【レベ】 ・身近な地域で学びを深められる環境の整備 ※生涯学習環境の更なる充実の観点【レベ】 ・多様な主体との連携促進

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 札幌市民の健康寿命は男女ともに全国平均を下回っており、20～50歳代の働く世代では、他年代に比べ、肥満、運動習慣、ストレス、飲酒などの分野で指標の達成が遅れていることから、市民や企業の健康への意識が高まり、健康づくり等の取組に積極的に参加することで、誰もが生涯元気に過ごしていることが重要。
- 生涯学習をしている人の割合は58.6%（H27）となっており、高齢者人口の増加や多様な働き方等の社会の変化を捉え、多様な学びの機会を提供するとともに、学んだ成果を生かして主体的に社会に参画・活躍できる人を育む必要。

■第2回審議会でいただいたご意見

- 健康については、医療や介護の提供だけでなく、予防という観点も入れるべき（大西委員）。
- 健康については、個人の意識も重要であるが、空中歩廊のような、車に頼らない社会を作り、ナッジによる自然に健康に導かれる、ウォーカブルな都市空間を作り上げていくことも重要（大西委員）。
- 健康寿命は重要なキーワード。日常生活、運動などによる健康寿命の延伸について記載して欲しい、また、幼少期の発育が将来的な健康につながるので、子どもたちが健やかに育つ場所、指導できる人材が必要（川島委員）。
- 子どものころからの健康づくりやまちづくり、高齢になっても学び直しができることが重要（尚和委員）。

基本目標5 生活しやすく住みよいまち

■目指す姿 **案**

1 多様なニーズに応じた住まいが確保されているとともに、在宅医療、身近なかかりつけ医の普及など医療体制が整い、支援を要する方及びその家族は、医療、介護、福祉の連携の下、適切な支援を受けています。

※「住宅支援（高齢者住宅等）」や「配慮を要する方への福祉支援」、「医療体制の整備（地域医療、在宅医療、救急医療など）」、「地域包括ケア」の観点を記載。

2 建物や道路等のバリアフリー化やユニバーサルデザインの導入が進み、誰もが円滑に移動することができ、快適に利用できる環境が整っています。

※主にハード面の「バリアフリー化の推進」の観点を記載。
※ソフト面の心のバリアフリーは「地域分野」に記載。

3 行政のデジタル化が進み、申請や相談等の行政手続がオンラインで完結するなど、行政サービスの利便性が向上しています。

※「行政手続のオンライン化」や「窓口の利便性向上」、「デジタル格差是正」の観点を記載。

4 市民・企業・行政の連携やICTの活用などにより、市民の多様な暮らしを支える交通環境が保たれているとともに、持続可能な除排雪体制の下で冬期の道路環境が確保されています。

※「交通環境」、「冬期の道路環境（除排雪）」の維持・確保の観点を記載。
※全般的な「**住環境**」―「交通」は都市空間で記載

■私たちが取り組むこと **案**

目指す姿	市民・企業など	行政
1	<ul style="list-style-type: none"> 多様なニーズに応じた住まいの供給【新規】 安定した医療・介護・障がいサービスの提供 身近なかかりつけ医の受診 高齢者や障がいのある方、認知症への理解【レベ】 ※認知症への理解の観点 支援を要する方の把握への協力 障がいのある方の雇用推進 etc	<ul style="list-style-type: none"> 住まいの確保に課題を抱える方への居住支援【レベ】 ※居住支援の観点 地域包括ケアの推進【新規】 支援を要する方の適切な把握 介護人材の確保・定着に向けた支援【新規】 重度障がいのある方等に対する就労支援【新規】 etc
2	<ul style="list-style-type: none"> バリアフリー化やユニバーサルデザインへの理解と導入 etc	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設等のバリアフリー化やユニバーサルデザインの導入推進 民間施設等のバリアフリー化やユニバーサルデザインの導入促進【新規】 etc
3	<ul style="list-style-type: none"> マイナンバーカードの積極的な活用【新規】 積極的なオンライン申請の活用【新規】 デジタルリテラシー※の向上【新規】 etc	<ul style="list-style-type: none"> マイナンバーカードの利活用促進【新規】 行政手続のオンライン化【新規】 デジタル格差の是正【新規】 ワンストップ化やワンスオンリー※など窓口における利便性の向上【新規】 適切なデータ利活用【新規】 プッシュ型サービス※の実現【新規】 etc
4	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の利用促進 雪対策に関する理解・協力 etc	<ul style="list-style-type: none"> 交通環境や冬期の道路環境の維持・確保に向けた取組の推進 etc

デジタルリテラシー：デジタル機器の操作などに関する能力や、情報を取り扱う上での理解、さらには情報及び情報手段を主体的に選択し、収集活用するための能力
ワンスオンリー：一度提出した情報は再提出不要であること
プッシュ型サービス：一人ひとりに合った行政機関などからのお知らせを表示する機能

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 住宅確保要配慮者のうち、低額所得者や高齢者、障がいのある方の住宅支援ニーズは増加傾向であり、多様なニーズに応じた住居支援が必要。また、高齢者人口や要介護者の増加が予想されるとともに在宅医療の需要増加やダブルケア、8050問題など支援ニーズが複合・複雑化する中、ニーズに対応する支援体制が構築され、医療、介護、福祉の連携の下、適切な支援を受けていることが重要。
- 市有建築物はもとより、民間建築物の更なるバリアフリー化やユニバーサルデザインの導入が必要。
- 新型コロナウイルス感染症の蔓延の中で、行政手続のデジタル化の遅れなどが顕在化しており、誰もが安心して利便性を実感でき、市民生活の質の向上につながる「市民目線によるデジタル改革」が重要。
- 人口減少や少子高齢化により公共交通の利用者の減少が予想される中、市民の多様な暮らしを支える交通環境の維持・確保が重要。さらに、除雪従事者の不足・高齢化、労務単価や機械損料の高騰等により除雪予算が急激に増加している中、冬期の道路環境の維持・確保が重要。

■第2回審議会でいただいたご意見

- 現在の戦略編には、自ら支援にたどり着けない市民を適切に把握するという表現があり、次期ビジョンでも位置付けていくべき（浅香委員）。
- 新しくできたお店でも、段差があり残念に思うこともある。今後は、高齢者やハンディーのある人、ベビーカーの親子連れなどにも優しい施設がより一層求められる（牧野委員）。